

次代に責任!

～愛されるまち神戸を「西区」から～

神戸市会議員

西区

いつも地域に

かじ幸夫

市会報告

Vol.9
2024



事務所: 神戸市西区王塚台7丁目105-2
TEL&FAX 078(924)0151
E-mail kajiยุกio2019@gmail.com

編集・発行/こうべ未来市会議員団

〒650-8570神戸市中央区加納町6-5-1 TEL 078 (322) 5844 FAX 078(322)6161

会派
紹介

こうべ未来市会議員団

立憲民主党、国民民主党所属の議員7名で会派を構成しています。それぞれの得意分野を活かしつつ、力を合わせて議会活動に取り組んでいます。

かじ幸夫は、今年度、会派の**政務調査会長**として、市民・団体の皆さまからいただく要望の調整や会派の政策立案など、精力的に取り組んでいます。

令和6年度神戸市当初予算に対する 会派要望

《要約》



かじ幸夫からの要望内容は裏面

神戸市は、人口減少と高齢化のなか、新しい社会モデルとなる神戸のまちを構築する必要があります。神戸の未来のために、そして市民のより豊かな暮らしを実現するために、「**未来への人づくり**」「**未来へのまちづくり**」の視点で、市の財源を活かした積極的な投資を求めます。

人づくりとして、未来の宝物である子どもたちが主役のまちをつくること。学校教育に加え、居場所づくりなど生活全般を支える仕組みの拡充をすること。また、障がいや高齢によるハンディキャップがあっても、誰もが自分らしく生きていけるよう重層的な支援を構築することなど、人にやさしい施策の実現を求めます。

まちづくりとして、公共交通をはじめとした社会インフラの整備、水素を活用した脱炭素社会に向けた施策の実現。ドローンなど次世代技術を活用した産業の構築等、活力あふれる神戸を創造する施策の実現を求めます。

私たち議員団は、30年後50年後を見据えた神戸のまちづくりのために、『**未来への投資**』が積極的に行われる**予算編成となるよう要望**します。

【次号予告】

2月15日、令和6年第1回定例会市会が招集され、令和6年度神戸市予算に対する議案審議がスタートしています。審議の概要については、次号 (Vol. 10) にてご報告させていただきます。



水素エネルギーの利用促進

質問 かし幸夫 港湾局では、港湾エリアへの水素供給拠点の誘致や水素を取り入れた脱炭素化の取り組みなど先進的な支援を進められています。港湾局との連携状況を伺います。

答弁 環境局長 神戸港カーボンニュートラルポート協議会へのオブザーバー参画を通じて、神戸港や神戸空港を対象とした水素の利活用に際し、緊密に連携しています。再生可能エネルギーの利活用も含めて本市の脱炭素の取組推進に向けてしっかりと連携をしていきたいと考えております。

質問 かし幸夫 神戸空港で計画されている新ターミナル建設を踏まえ、このエリアにおける水素発電の導入を検討できないか。

答弁 環境局長 神戸空港で整備を進めている新ターミナルでは、カーボンニュートラルの実現に向けた取り組みが検討されています。将来的には水素エネルギーの活用や次世代太陽光パネルの導入など、様々な観点から検討を進めていきたいと考えています。

決算特別委員会にて



質問 かし幸夫 兵庫県や姫路市が水素の利活用について取り組みを進められています。現状、近隣都市との連携について伺います。

答弁 環境局長 兵庫県水素社会実装をめざす自治体連絡協議会を通じ、県内自治体を巻き込みながら水素に関する連携を図っています。播磨地域の大きな水素需要ポテンシャルを生かし、今後も連携強化を深めていきたいと考えています。

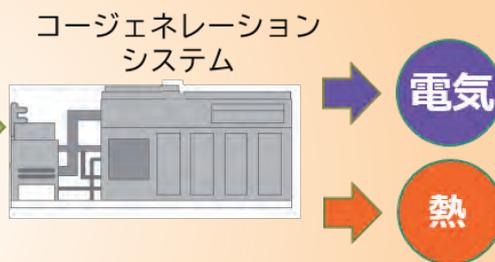
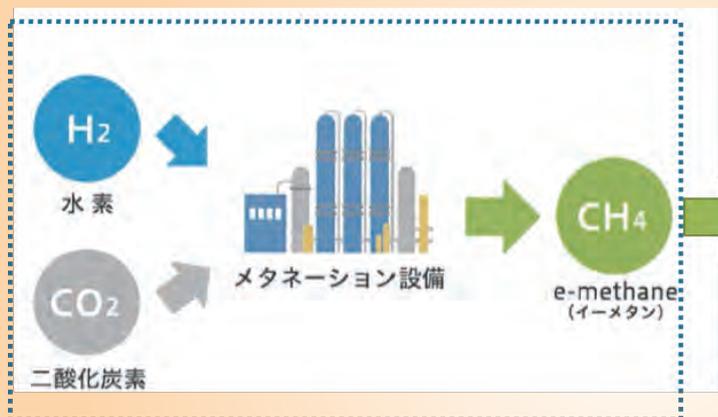
質問 かし幸夫 FCVについて、環境局としてパッカー車など公用車への導入について考えを伺います。

答弁 環境局長 本市における、公用車の導入基準として環境負荷の小さい車の導入を推進しているところです。現在、導入基準の改正を検討しており、FCVの導入を今まで以上に推進するという方向で水素需要の創出を図っていききたいと考えています。パッカー車については、一部自治体において試験運用が行われており、一般販売にはまだ至っていない状況です。今後、他都市の事例等を参考にして検討を進めていきたいと考えています。

か し 要 望

水素スマートシティ神戸構想の推進に向け、水素を中心としたまちづくりを進めていただくことを強く要望しておきます。

メタネーションイメージ



次世代クリーンエネルギー活用実証事業として、神戸空港島にてメタネーションの取り組みが始まります。メタネーションとは、水素(H₂)と二酸化炭素(CO₂)を反応させ、天然ガスの主な成分であるメタン(CH₄)を合成するものであり、このような方法で作られた合成メタンは、ガスの脱炭素化に貢献する次世代のエネルギーとされています。



1. 地域公共交通について

質問 かし幸夫 現在、市内各所において地域コミュニティ交通の試験運行が行われ、本格運行に至った路線も出てきました。市民の要望を受け、必要な移動を守るものとして取り組まれていることを評価しています。一方、個別の運行事業では、収支の課題や運行体制確立の課題など、先行きに不安を感じているところです。将来にわたって維持・存続、そしてより充実させていくために、これら課題にどのように取り組まれるのか伺います。

答弁 副市長 神戸市地域公共交通計画を策定し、地域の実情に応じた多様な地域コミュニティ交通を導入することで、地域の生活の足を確保しているところです。導入にあたって、地域特性や需要調査の結果を踏まえて運行を支援する仕組みとなっています。ただし、導入後、社会情勢の変化などにより、著しく利用者数が不足するといった場合、利用実態に見合った運行内容の見直しを行うことで運行継続を図ってきたところです。地域コミュニティ交通を将来にわたって維持・存続させていくため、引き続き適切な支援制度の在り方を今後とも検討していきたいと考えています。

質問 かし幸夫 路線バス事業については、利用者数の減や運転士が確保できないという理由で、路線の減便、廃止されることが全国的な課題となっています。一部は自治体の財政支援で維持・存続がしている事例もありますが、大型バスを使用し、利用者の多少にかかわらず走らせ続ける。この運用を見直していく時期に来ていると感じています。

これまで、地域コミュニティ交通は、主に交通空白地を埋める市民の移動確保の観点で運行してきましたが、これからは既存の路線バス事業に対する代替交通になり得ると考えています。路線バスからコミュニティバスやデマンド交通へモード変更していく、そういった検討を始めていくべきだと考えていますが見解をお伺いします。

答弁 市長 かし議員と全く同じ問題意識を持っております。それぞれの路線の状況をしっかりと把握し、交通局や民間事業者の方とも意見交換を行い、神戸市がコーディネーター役としてモード転換に向けた取り組みを行っていきたいと思います。

質問 かし幸夫 公共交通の存在意義の観点で、クロスセクター効果について伺います。地域公共交通は単なる移動手段ではなく、地域内、地域間の交流人口を増やす基盤的なサービスであり、例えば公共交通の利便性を高めれば、高齢者の外出機会を支えることができ、健康増進や就労機会に繋がる。そのことで医療費、社会保障費が縮減され、社会全体として費用負担が下がるとされています。この「クロスセクター効果」を研究・検討し、公共交通の存続に対する財政支援などの数値的根拠とすべきと考えますがいかがでしょうか。

答弁 副市長 他都市の事例や国の動向などを注視しつつ、クロスセクター効果の考え方である地域公共交通の多面的効果を評価するという考え方について、本市としても取り入れていきたいと考えており、地域の実情に応じた持続可能な公共交通ネットワークの形成に努力してまいります。

か じ 要 望

地域コミュニティ交通の充実に対して、都市局担当職員を中心に尽力いただいています。これからも、より拡充していくために、適切な人員配置を要望しておきます。



2. 地域福祉センターについて

質問 かし幸夫 地域福祉センターに関する検討委員会から出された最終報告書によると、将来的に地域福祉センターを地域活動の促進、地域社会の課題解決に寄与する施設へと発展させることとされています。センターを拠点に市と市民が連携して、活力ある地域社会が醸成されることに期待しています。一方で、地域福祉センターの運営や利活用については、地域ごとに特色があり市民ニーズや取り組みもさまざまです。また、高齢化や担い手不足の現状では、地域福祉センターの管理運営を続けていくことが困難との声も見受けられます。今後のセンターのあり方について見解をお伺いします。

質問 かし幸夫 玉津地域福祉センターについては、玉津支所への移転が決まっており、センター跡地について、地域住民の意見も十分踏まえた上で、市として長期的、総合的な視点で検討いただきたいと思えます。加えて、地域住民の生活基盤の充実に資するような利活用とされたいと思えますが見解をお伺いします。

答弁 副市長 移転後の跡地の活用については、まだ具体的な検討というには至っていませんが、指摘いただいた点も踏まえ、地域のニーズ等も考慮し、全市的な観点で有効活用についての議論を進めていきたいと考えています。

例えば、カルチャーセンター機能など、玉津地域福祉センター建物を活かし、民間活力による新たな区民の集いの場として活用できるのではないかなと思えます。建て壊して売却ではなくて、しっかり市の財産として利活用いただきたいと思えます。

か
じ
要
望



本会議一般質問にて

3. 市立学校園における 清掃業務について

質問 かし幸夫 現在、市立学校園における校内の清掃業務については、児童生徒が対応しています。教育の観点があることは理解しますが、学校授業日の全てにおいて児童生徒に清掃させ続けることの意義について、改めて検討するべきと考えています。このことから市立学校園における清掃業務について、業務委託の導入を検討するべきと思えますが見解をお伺いします。

答弁 教育長 小・中・高校において、児童・生徒が日常的に使用する教室、廊下などの清掃を行うということが一般的であり、子供たちの協調性や社会性を育む上で一定の教育的意義があるものと考えています。一方でこれまで当然のものとして行ってきた活動でも、本来の目的に沿っているか、必要以上に手間や負担をかけていないかといった観点から見詰め直しを進めているところです。現在、時程編成の見詰め直しの中で、清掃についても箇所や使用頻度によって回数を柔軟に設定することとしており、毎日実施から週3回にするなどの学校が増えてきています。日常的な清掃について、業務委託する場合の費用面の課題もありますが、学校の業務と活動の見詰め直しを行っていく中で、清掃活動をどのように位置づけて行うのが適切なのか、学校現場の意見も聞きながら、よく考えていきたいと思えます。

質問 かし幸夫 市立学校園のうち中学校に着目すると、今後、給食の全員喫食に向けた取り組みが進みます。これにより盛りつけなど配膳が加わることで、今まで以上に喫食時間がかかると聞いています。現在、必要な喫食時間を確保するために、授業時間や休憩時間、部活動の時間の時程について見直すことを検討されていますが、生徒の学校生活に必要な時間を捻出するため、まずは中学校にて清掃業務の業務委託について先行実施ができないかと思えますがいかがでしょうか。

答弁 教育長 現在、中学校の給食時間は概ね20分程度となっていますが、今後、全員喫食へ移行すれば、これまで以上に時間を確保する必要があると認識しています。十分な給食時間の確保に向けて検討するよう各校に示しているところですが、休憩時間あるいは清掃、部活動の時間も含めた時程編成全体を改めて見詰め直すことが必須であると考えています。清掃活動をどう位置づけて、どう行うのがよいのかよく考えていくべき課題と認識しています。

か
じ
要
望

市が管理する公共施設の清掃については業務委託で対応しており、市立学校園についても前向きに検討いただきたいと要望しておきます。





要望① すべての市民が安心して暮らせるやさしいまち神戸

高齢化が進むなか、介護世帯への支援を充実するとともに、介護する側の負担軽減を進め、人材の確保を図られたい。障がい福祉サービスにおいては、支援メニューのコーディネート機能を拡充されたい。多様性を認め合う市民意識の醸成に向け、「神戸市ライフパートナー制度」を活用し市民への啓発を強化と、民間企業も含めた施策の充実に取り組まれたい。

要望② 未来を担う子どもたちを誰ひとり取り残さないまち神戸

子どもを中心に据えた施策の推進や、子どもの声を直接聴く仕組みづくりに努められたい。加えて、教育の現場においては、少人数・複数指導や教科担任制、チーム担任制に市独自の人材を配置するなど一層の教育の充実を図られたい。学童保育について、施設整備と学習や保育の質の向上に努めるとともに、支援員のさらなる処遇改善と人材確保に努められたい。



要望③ 住み続けたくなる魅力あるまち神戸

市民ニーズに応じた交通網の整備を図るとともに、都心や里山への移住定住促進や空き家・空き地対策など、神戸に住みたい、住み続けたいと思われるまちづくりに引き続き尽力されたい。また、「若者に選ばれるまち」となるために、地元産業の活性化、新たな産業の振興や企業誘致を積極的に行い、働く場所・住む場所として神戸が選ばれるよう取り組まれたい。

要望④ 豊かな経済、選ばれる観光など活力あふれるまち神戸

市内のにぎわい創造や魅力発信につながる支援を継続し、市内事業者を応援するとともに、市場・商店街に対しては、それぞれの特性に合わせて様々な施策に取り組まれたい。また、滞在型観光需要を喚起するため、神戸夜市の常設、花火・イルミネーションなど、夜型観光コンテンツの充実を努められたい。



令和6年度予算に向けた 久元市長に対する

予算要望

2023年（令和5年）12月25日、市役所にて、令和6年度神戸市予算策定に向け、会派として久元市長に対し予算要望そして意見交換を行いました。重点項目など申し入れるとともに、各議員からは個別に意見・要望を伝え、それぞれ市長から考え方が示されました。かじ幸夫からは、敬老・福祉乗車証の市負担金の課題、そして認定こども園の今後のあり方について要望しました。

市民目線に立ち提出した各要望項目について、しっかり予算へ反映されるよう引き続き取り組んでまいります。



会派予算要望にて

かじ視点



能登半島地震に心を寄せる

2024年（令和6年）1月1日、能登半島地震が発生しました。地震規模は阪神淡路大震災を上回っており、現地では多くの方が被災されています。亡くなられた方に心からお悔やみ申し上げますとともに、現在も厳しい状況下で生活されている方々にお見舞い申し上げます。

神戸市は、発災後ただちに対策本部を設置し、国や被災自治体との協議のうえ、関係部局から多くの職員が輪島市、珠洲市へ入り復旧・復興支援に努めています。

この災害を受けて、個人としてボランティア支援や何かできることはないか情報収集に努めているところですが、一方でいま私たちにできることとして、**来たる南海トラフ地震に対して、しっかり備えられているかというのを再度確認すること**が大切だと思っています。災害から逃げることはできませんが、**ひとり一人が備えることで受ける被害を減らすことはできます**。ご自身やご家族の備えは大丈夫か、そして地域や職場の備えは大丈夫か。いまこそチェックし防災意識を高めておいていただきたいと思います。

能登半島で被災された方々に心を寄せ続けながら、神戸市に対して、神戸における災害に備える対策について引き続き求めていきます。

子どもたちの学校生活と 校内清掃活動

「役所や公的施設では、外部の事業者が建物内の清掃をしているのに、学校現場だけなぜ子どもたちが掃除をしているのか？」

すべてはこの言葉から始まりました。たしかに教育の観点で、子どもたち自身が校内の清掃を担う意義については理解していますが、すべての授業日に清掃していることに疑問を持ち、本会議にて質問しました。

現在、子どもたちの学校生活では、**授業時間の確保や教職員の働き方改革の観点で時程の確保に課題があり、課題解決の一助として清掃業務委託を提案**しました。すべての学校園に取り入れられると大きな財政支出が必要となりますが、今後中学校給食の全員喫食が始まることを受けて、喫食時間の確保が課題となっており、その時間確保のために、校内清掃のうち廊下やトイレ、特別教室など、先行的に外部委託を導入していくべきではないかと考えています。引き続き、子どもたちの声や学校の状況を見ながら申し入れていきます。